

## 令和3年度 第3回 海老名市立大谷中学校 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和4年3月22日(火) 15:00～
- 2 場所 海老名市立大谷中学校 校長室
- 3 出席委員 熊澤美恵子委員、藺口美佐子委員、岩崎佐容子委員、吉田存委員  
吉田守委員、長久栄子委員、村松かおり委員、竹島和也委員

### 4 内容

#### 学校長あいさつ

感染拡大の状況は、校内でも心配な時期があったが、徐々に落ち着きを見せ、3月9日には全員進路決定した状態で、卒業式を迎えることができた。委員の皆さんに見ていただけなかったのが残念だったが、緊張感のある式が行えた。

第2回学校運営協議会の際、稲作体験活動についてのご意見をいただいたが、今後も内容の精選はしつつも継続する方向で進めていく予定。

### (1) 令和3年度のまとめ

#### 【教育課程の報告、計画をもとに】

別紙(令和3年度教育課程の実績報告と令和4年度教育課程の計画)を教務担当から報告した。例年と同等の授業時数の確保はできた。感染症対策として市統一の短縮での日課編成により、教科の時数を確保することを優先したため、総合・道徳・学活の減はあった。

教頭：令和3年度では合唱祭、1年の野外教育活動、2年の鎌倉校外学習・職場体験が実施できなかった件を報告。職業講話、職場体験に代わる講演はともにオンラインで実施した。卒業式参加は2年生代表者1名、保護者1名と人数制限をしたの実施となった。入学式は4月6日で、保護者1名は卒業式と同じ。

校長：できれば卒業式で在校生には卒業していく姿を見せる機会を設けたかったと感じている。部活動では大会等で先輩から後輩への引き継ぎ等の機会もあるが、卒業の機会ではそれも中々難しいと感じる。全体の卒業式に参加できなかった生徒にも、午後の式の対応などで証書を渡すことができた。

教頭：稲作体験活動について、総合的な学習の時間の設け方・位置付けを改めて確認。

校長：収穫祭などの内容は縮小し、今後も継続して出来る形として実施していきたい。

藺口：感染症が心配な時期は縮小の形は仕方ないと思うが、「餅つき」など日本の文化である内容を学べる機会については、感染症対策の心配がなくなったときには再度実施することも考えてほしい。

吉田守：伝統文化の継承としては、実施する形を模索してもらいたい気持ちもある。

#### 【学校評価アンケートをもとに】

校長：「学校生活は楽しい」と感じる生徒が多い理由としては、長期の臨時休業を経て、学校生活の価値を見直す機会となった部分もある。「学校の決まりや約束を守れているか」についても生徒の意識は高く、それが安心感のある生活につながっていると思う。先生と生徒の信頼関係についても向上してきている。今後も一層の努

力をしていきたいと考えている。

主体的な家庭学習については、努力はしているものの、肯定的な回答が少ない。各自で学びに向かう時間はまだまだ作れていないように感じる。

自己肯定感については、他の項目と比較すると低く、向上させる働きかけを学校として設けていきたいと考えている。

吉田：いじめ問題については、どうでしょうか？

校長：ないとは考えていない。クラス・部活動内の問題を、担任や顧問などの個ではなく、学校全体で捉えることを基本として動いている。初期対応を大事にしている。

熊澤：学級閉鎖は、今年度ありましたか？

教頭：学級閉鎖は2学年で1クラス実施。学年末試験の直前でもあったので、2年のみ試験の実施時期をずらして行った。

熊澤：学級閉鎖があった場合は課題配付などの対応はしましたか？

教頭：試験直前だったため、試験範囲を示して、試験勉強に取り組んでもらう形とした。

熊澤：小学校によってはタブレット配付をして取り組んだところと、配付しただけで特に何もなかったケースもある。

藪口：学校評価アンケートの質問内容について、変更が可能かどうか知りたい。

「先生方は授業を分かりやすく教えているか」という質問に対して、生徒は肯定的だが、授業を見る機会がない中で保護者が同じ質問に回答するのは難しいと感じる。そもそも家庭学習の習慣化は家庭の責任であり、学校の責任ではない。

## (2) 令和4年度に向けて

### 【学校経営案をもとに】

校長：学校教育目標「自立・夢を拓く人」については次年度も継続していく。

自己肯定感への向上を目指し、今後は他者を認める機会だけではなく、自己を認める機会も重点として考えていく。

「深める学び」については、新学習指導要領を鑑み、基礎学力の定着を図るための目標は少し変更していく。書く力を蓄えるためには、語彙を増やすことや、自分の気持ちを表現できる力を育てることが大事と考えている。そのため書く力を高めるためにも、読む機会を増やしていきたいと考えている。また、対話的な学びを進める上で、必然性のある場面を設けていきたい。

「社会とのふれあい」については、自分が学んでいる内容が世の中とつながっていることを感じさせ、学ぶ意欲を高めていきたいと考えている。

学びのつながりを重点にしたいため、重点目標「学びのネットワーク」を継続したい。

教頭：地域・社会とのつながりという点では、青年会議所との連携も図った職業講話を今年度実施できた。

## (3) 情報交換

学校運営協議会のメンバーは次年度も継続で依頼を確認

次年度の学校運営協議会の時間帯を少し早めに始め、学校の様子を見ていただく機会を設けたい。早めに日程の設定を伝え、確認できるようにしたい。